

学校をつくろう！通信

がっこう・N.P.O.



珊瑚舎スコール

第141号

第20回春の学校・うりづん庭

「卒業を祝う会」より

2020年度の卒業生は高等部の城間柚花、住田瑠羽、夜間中学校の小田ミヅエ、翁長エツ子の4名でした。那覇市与儀の校舎で行う最後の行事です。20年の月日に別れを惜しみながら、2月21日に「卒業を祝う会」が行われました。星野から卒業生に送られた言葉と、卒業生から珊瑚舎スコールに送られた言葉を紹介いたします。

「城間柚花さんが

珊瑚舎スコール高等部を

今日、卒業することを

みなさんと認め合うための辞」

あなたに初めて山がんまりで会ってからもう、十年ほどになるのではないかと思います。少女だったあなたから、今ここにこうして立っているあなたの中で流れた時間の大切さを感じます。その根は十年前のあなたの中にありました。ゆっくりゆっくりあなたの中でそれは醸成されて来たものだと思います。そういう力をあなたは持っていた。内気で人見知り、は芯の強さと穏やかさに変容しました。読むことの喜びを、今手にしようとしている。珊瑚舎を諦めないでいてくれたことをありがたく思っています。新しい足どりで、強く優しく美しく！

学びましょう。愛するために学びましょう。

「卒業にあたっての言葉」

城間 柚花

自分が不得意とすること、苦手とすることは沢山ある。

人見知りで内気。奥手で人前に出るのが苦手。今

まで見ようとしてこなかった自分と、正面から目を合せること。

全部、好きな自分とも、嫌いな自分とも向き合うことで、人に会い、人と話し、人と関わることで、時間がかかっても不得意を得意にしていく。

そうやって自分と向き合いながら学んでいく。他者と共に学んでいく。前に進むために学んでいく。

自分と向き合い学ぶことを、珊瑚舎で、人との関わりの中で知りました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

「住田瑠羽さんが

珊瑚舎スコール高等部を

今日、卒業することを

みなさんと認め合うための辞」

円は中心が一つです。楕円は中心が二つです。人は円から楕円に脱皮する珍しい生き物です。その脱皮は単語の世界から文章を紡ぎ出す過程と言い換えることができます。ある著名な作家が僕のことばに接してコメントを新聞に書いていました。内容は円のことばと楕円のことばについて書いていると僕は思います。「何言っているんだよ」とあなたは思うかも知れません。でも今、ここにこうして立っているあなたはほとんど脱皮の過程に足を踏み入れようとしているとも思っています。円の中だけで生きる人は結構多いと思っています。健闘を祈ります。

学びましょう。愛するために学びましょう。

「卒業の言葉」

住田 瑠羽

この文章は俺の現在の気持ちだ。

珊瑚舎にいる間、楽しい時もあつたし、悲しい時、きれまくってる時、考え込んでる時、恥ずかしい時、くだらないことをしてる時。

数え切れないくらい色々なことをした。

この場を離れることを寂しく思うし、反対に楽しみでもある。もちろん寂しくなるのは、仲間と珊瑚舎とえんとのタバコの臭さから離れることになるからだ。楽しみなのは自分が珊瑚舎で得たことをずっと使い続け人生を歩めるということ。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

「小田ミヅエさんが

珊瑚舎スコーレ夜間中学校を
今日、卒業することを
みなさんと認め合うための辞」

著名な彫刻家の工房を訪ねたことがあります。九十八歳の方でした。工房の裏には新に仕入れた厚く大きな板が何枚も重ねてありました。二十年ほど乾燥させてから木彫の材にするとのことでした。年齢を忘れて取り組む道を手に入れた人の姿と言葉に圧倒されました。ひどく感動したことを覚えています。学ぶ喜びを知った人も同様だと思っています。学びは快樂なのです。学校で学ぶことは学びの一部でしかありません。卒業の節目は新たな学びのスタートです。知ること、考えること、表現すること、それが学びの本質です。

学びましょう。愛するために学びましょう。

「卒業に当たり」 小田ミヅエ

学び直しのつもりで入学した珊瑚舎でしたが自分の体力との戦いでもありました。

クラスの友や授業の合間のユンタクに励まされ自分も話している内に三年がたちました。

サンシンを習い物語を読み、その感想を文章に書き、舞台上で発表して大変な経験をしましたが、なぜか満足しております。

社会人の一年生をやり直すつもりで卒業致します。



「翁長エツ子さんが

珊瑚舎スコーレ夜間中学校を
今日、卒業することを
みなさんと認め合うための辞」

人にはそれぞれ事情で学校での学びを諦めなければならぬことがあります。そのことが心の棘となりいつまでも人生の痛みと感じる方々がいます。あなたはその棘を何十年も経って、珊瑚舎スコーレ夜間中学校で消し去ろうとしました。素敵なことだと思います。しかし、その途上、長い間、病魔とも闘わなければなりません。大変な焦燥と不安に襲われたと思います。それらを克服し、今日、あなたはこうして、ここに立っています。心からおめでとうと言いたいと思います。学ぶことに終わりはありません。人は学ぶ生きものなのです。

学びましょう。愛するために学びましょう。

「卒業の種」 翁長エツ子

長い間、心の中に抱えていた種、どこに植えようか、風の便りで珊瑚舎があるよと、聞いた。珊瑚舎の花壇に種を植えよう。他の種も一緒に水をやり肥料を与えて育てていこう。成長して枯れもせず、芽が出て葉が付き、蕾が出て今、まさに花開こうとしています。

卒業の種が咲きました。珊瑚舎の花壇に咲きました。満開です。

～ 卒業生におくる言葉 ～

「卒業生へ」

中等部 城間 喜子

卒業おめでとう。寂しくなるね。

ゆのか、4年間かな? 困った時とか助けてくれてありがとう。そんなに沢山喋ることとかはあまりなかったけど、もっと話しかけておくべきだったなって結構後悔してます。

でも、がんまりの道具の使い方とか他にも沢山、色々なことを教えてもらって本当に感謝しかないです。

これから新しい環境でも、ゆのからしく頑張ってください。卒業おめでとう。

るう、短い間ってゆってもそんなにみじかくないけど、なんか短く感じますね。

卒業おめでとう。

「卒業生に贈る言葉」 中等部 山川 虎雅

ゆのかへ

俺が珊瑚舎に入りたての中学1年の4月ごろ、ゆのかをどう呼んだらいいかを迷っていた。「ゆのかねえちゃん」っていうのは、言いづらいな〜どうしようかな〜と思った時、そうだ、ゆのかになんて言っているか聞こうと思い、ゆのかになんて呼べばいい？と聞いた。そしたら、ゆのゆのって呼んで〜とやってきた。そこからゆのゆのと話し始めた。ゆのゆのと話してる時は不思議な感覚だった。話しかける前にいつもイエーイとか、手をあげてハイタッチしたり、俺の変な急のノリにノってくれたのが嬉しかったし、楽しかった。お互いの好きなことを話したりする時に自然と笑顔がでてきたり、空気が明るくなったりして楽しかった。ゆのゆののそうゆう感じが楽しくなるような感じだったから、俺もそれを他の人にもそうゆう感じで話したいなと思った。ゆのゆのって呼んでから親しみやすくなった。卒業してもまた珊瑚舎に遊びに来てね！もちろん来年度のハーリーはOBとして来るよね？

るうへ

最初の印象は、ギターもピアノも弾けるし、しかも上手い！カッコイイと思っていた。でもこの人とは関わらなさそうだなと思っていた。でも、いつのまにか仲良くなっていた。るうといる中で一番印象に残っていることがあって、それは、一昨年の夏休みでのゲーセンで遊んだことです。その時の俺は、夏休みに友達と長期間遊ぶってゆうことがあんまりなかったから楽しかったし、誘ってくれたりもしたから嬉しかった。るうといる中で楽しかったことは、とうんじでピアノをしたことや、るうの家に泊まりに行ったことです。

ある日、俺が歩いて帰る時があって、一人で帰ろうとしたらるうが来て、一緒に帰るって言ってくれて嬉しかった。それでその日は家までついてきてくれて、しかもそこから寮まで帰ると、遠回りなのに来てくれて嬉しかったし、るうの優しさもみれてよかった。そんなるうが来年度からいなくなるのはさみしくなる。でもまたゲーセンには遊びに行こうね。次は絶対に勝つ。2年半、楽しませてくれてありがとう、るう。

最後に、ゆのゆのとるうが今年の3年で良かった。コロナとかで学校が休みになったりしたけど、それすらも飲みこむような楽しい1年だった。最高の高3だった。生徒としては今日で終わりだけど、ミュージカルまで楽しんでがんばろう！るう、ゆのか卒業おめでとう。

小田さんと、翁長さんにあつたのは2年半前だったね。いつもるうやたけちゃんや、夜間中のみんなと冗談を言って話しているのが楽しかったし、授業を楽しんでる感じが俺も楽しくなるから、そうゆういつも楽しんでる2人がすごく好きです。

いつも笑顔溢れる2人が大好きです。珊瑚舎を卒業しても俺やるうと、たけちゃんの、三線の授業を覚えていてね。小田さん翁長さん卒業おめでとう。また珊瑚舎に遊びに来てね



「おくる言葉」

伊舎堂 ヒロ子

小田ミヅエさん、翁長エツ子さん

珊瑚舎スコール夜間中学ご卒業おめでとうございます。これからも健康に気をつけられて、又の日におしゃべりの場を持ちましょう。共に机を並べて学んだ思い出を大切にしたいと思います。

がじゅまる しんかめちゃー



(生徒・学生のコーナーです)

第20回「春の学校・うりづん庭」は学年末に行われる珊瑚舎スコールの学習発表会です。一年間の学びを展示や舞台上で発表するほか「まれ人講座」や「生徒がつくる授業」などを行います。2020年度の授業テーマは「海の環境問題」「本」の2本でした。「海の環境問題」はその中でさらに「海のゴミ」と「サンゴ」を小テーマにした授業を組み立てました。また、「本」では、グループでトークセッションをしながら本についてのそれぞれの思いを深めていく授業となりました。作った生徒達の感想を紹介します。

「生徒が作る授業をつくってみて」

中等部 市川 瑠禾

環境問題最初の話し合いの時は、どこからやっていいのかわからなくて、とってもグダグダな状態だった。4回目くらいの話し合いでゴミと珊瑚のグループに分かれて、やる事が決まり、やっといい方向に進みはじめた。

ゴミグループは最初からみんなゲームがいい!! といって2回目の話し合いの時には、すごろくやろうと決まって、すごろくを作るのに取り組み始めた。私はすごろくを作った。どうやったら時間内におさめ、授業を受けた人にゴミ問題の事を考えてもらえるかを考えながらやるのがとっても大変だった。

すごろくを作りはじめて3日目くらいで、すごろく完成した!! リハもちゃんとやって完ぺきにできた!! あとは本番だけ!! と思った。そして本番の前日、まさかのすごろくが小さすぎると言われ、最初に作っていた4倍くらいの大きさの紙に10分でかくというハードな事をやっていた時、本当にこれでいいのか? 生徒が作る授業... と思い始めた。でも、もうど

うにもできないし... と思いながら本番を迎えた。でも、またハプニングがおき、授業の最初をどうするか考えてなく始まる3分前に急いで用意をして、やっと本番。ゴミチームに来てくれた人達はみんな優しく、私達の下手な説明にも一生けん命耳をかたむけて聞いてくれた。

すごろくは、私が思ってた以上にみんな楽しんでくれて、私の不安な気持ちもいつのまにかなくなっていた。

なんとか本番が終わり、みんなにアンケートをもらおう。もらいながらそのアンケートを読んでいくと、授業を受けて、意識が変わった。ゴミの問題が思ってたより大変な事なんだ。と書いてあったり、今も環境問題に気を付けている。もっと気をつけようと思ったなど、いろんな意見があって、でも、もっと環境問題をちゃんと考えて、これからできることをやっといこうと書いてくれてる人が多くて、最初は不安だったけど、ゴミ問題の深刻さがみんなに少しでも伝わってくれて、嬉しかったです。私ももっと環境問題を意識して、できる事をやっといかないといけないと思った。

「海の環境問題～サンゴ」 中等部 浦邊 和也

今年のうりづん庭の生徒の作る授業では、サンゴ礁の生態から海の環境問題を考える授業をしました。僕は4月に沖縄に来ました。しかし、その時はまだサンゴという物をあまり理解していませんでした。僕はいままでサンゴを植物だと思っていました。しかし、勉強していく中で、イソギンチャクやクラゲと同じ胞子を持つ動物だと判明しました。それを知った時、サンゴの生態は奥深いなあと実感しました。

「生徒が作る授業を通して」

～それでも私達は本が好き～高等部 城間 柚花
身近な本で授業。正直言って授業が1時間なのは足りない。準備期間も他の事をやりながらで全然足りない。愚痴ばかり言っても、何も始まらない。

土日やお昼休みの時、本の事で気になる事を調べてまとめる。まとめたものを元に、何を来てくれた人に伝えたいかを具体的にしていく。伝えたいことを決めたら、授業の大まかな流れ骨組みを作る。授業最初の掴みから考え、一方的な授業にならないように問いかけて一緒に考える。そのために必要な情報は調べて模造紙に書いて、視覚的情報を得られるようにする。そうやって肉付けをしていく。

何よりも生徒が作る授業で一番ムズイかもしれないと思う事は、複数人の意見をまとめ、一つの授業を一から作る事。人が多い程、話は脱線ばかりして前に進まず、人が多いから沢山意見が出るかと言えば、また骨組みを作る所へ逆戻りする事もある。二転三転しながら作る授業も、最後は実際にやらなければ分からない所が多い。

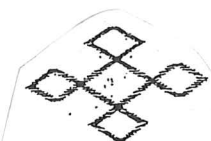
調べなくて上手く質問に答えられなかったり、授業の展開として強引な所があったり、情報不足な所があったりと、反省点は色々出てくる。

一通りの授業の流れを基本に、当日のその場の空気で臨機応変に質問に答えたり、補足説明をしたりとやってみないと分からないことが多い。その分不安はあるけど、どうなるのか楽しみな自分もいる。

アンケートでも「楽しかった」「面白かった」「本について考えられて良かった」という嬉しい言葉が沢山あった。だけど、紙媒体ばかりに論点を置いて電子媒体を否定する様な感じになっていた。そこは調べきれなかったし、反省すべき点だと思う。

調べていたのに、情報として授業に組み込めなかった事も多くて、1回で完結する授業を作るのは、何回生徒が作る授業をやっても苦労する。でも、普段生徒という立場だから、講師側の立場になれるのは面白い体験だと思う。

自分が興味ある事についてより一層理解を深めたり、もっともっと好きになる事が出来た。そこが、生徒が作る授業の面白い所なのだ。



イチヂ マルグム
(五つ丸雲)

ふくぎのふぁー



(講師・スタッフのコーナーです)

2021年度夏をめどに珊瑚舎スコーレ校外施設「山がんまり」間近に『キッズスコーレ』を開校予定しています。4, 5歳児クラスの「はべる(ちょうちょ)組」と6~8歳児クラスの「あけづ(とんぼ)組」です。春からスタッフとなる仲間を紹介いたします。

「踊り場にて」

木村 太朗

はじめまして。キッズスコーレスタッフの木村太朗です。香川県で保育士を約6年勤めた後、今年2月上旬、沖縄に移住しました。住んでいるアパートの階段の踊り場からは、馬天港の一部が見えます。その風景を見るたび、とまではいかずとも、何とはなしに「ああ、今、沖縄にいるのかあ」と、自分でも拍子抜けするような事を思いながら、踊り場を過ぎることがあります。

新生活における様々な不慣れさから生じる新鮮さ、妙な高揚感がそう思わせるのかもしれませんが、しかし、それらとは全く別の土台に「なぜ、今ここに自分がいるのだろう」という、あまりに単純な疑問が根を張っているようにも思うのです。疑問に対し答えを出すべく、ずっと踊り場に佇むわけにもいかないわけで、先に待つ階段に足をかける頃には、すっかりどうでも良くなってしまっているのが、日々の私です。しかし、良い機会なので普段の自分から少しだけ脱し、踊り場に佇んでいる気分になり、しばし考えてみることにします。

過去から遡れば、静岡県で生まれ、3年間のオーストラリアを挟み、高校卒業までは県内。その後は、大阪→京都→長野→京都→兵庫→香川、そして沖縄に至るのですが、いくらこれまでの結果を並べても疑問の解消にはなりません。また、これまでの自分の決断(しなかった、できなかったことも含め)から、「あの人に出会ってなかったら……あの場に居合わせてなかったら……」と、あらゆる「もし……」を

振り返り「全ての偶然は必然である」というような、キレイな答えにたどり着くのも少しむず痒いものです。

たしかに、説明のつかない偶然の結びつきによって、今があるとしか言いようがないのかもしれませんが、ならば、その不思議さを不思議さのままに、すぐ理屈付けや説明へ向かおうとする前に、まずはその傍らにそっと佇んでみたらどうなるのか。普段、さっさと踊り場を後にする私に言えた義理ではないのですが、“佇む(立ち止まる)”ということは“前進”と同じくらいか、目まぐるしい日々を生きていく上では、それ以上に大切なことなのではないかと思うのです。

気づくと冒頭の疑問から少しずつ逸れ、自分が求めようとした答えにも辿り着けませんでした。それもひとつ面白いことなのかもしれません。本当に不思議なものです。新たな疑問が巡ってきそうなので、今回は一旦、踊り場を去ることにします。

開校20周年記念 琉球ミュージカルのお知らせ 『風と土』(かじとぅんちゃ)

前号でもお知らせしましたように、4月4日開校20周年記念行事としてミュージカルを上演いたします。20周年では、第一回まれ人講座にお招きした詩人谷川俊太郎さんからいただいた連句の発句「種子はこぶ 風はまれ人 土はきみ」をもとに生徒達が書いたあらすじを元に講師が脚本化しました。南城市馬天の新校舎にて上演します。

日時：2021年4月4日(日)午後14時開演
場所：南城市佐敷津波古新校舎

なお、当日の入場は定員となり締めきらせていただきました。インターネット環境をお持ちの方(パソコン、スマートフォン、タブレットなど)はツイキャスオンラインでの観劇(有料)ができます。

観劇をご希望の方はお手数ですが、「ツイキャス」公式サイトで「ツイキャスアカウント登録(無料)」をした上で、オンラインチケット(ツイキャス)を

ご購入ください。お支払いはクレジットカードやコンビニ決済などとなっております。

<ツイキャス URL>

<https://twitcasting.tv/c:sangosya9011/shopcart/60649>

ツイキャスの

QRコード



引っ越しました

南城市馬天新校舎に移り、住所と電話等が変更されました。

新住所：〒901-1414

沖縄県南城市佐敷津波古 509-4

電話：098(975)7781

FAX：098(975)7783

★ ★事務局便り ★ ★

★2月の『春の学校・うりづん庭「まれ人」講座』はお笑い芸人・ユーチューバーの榎森耕助さんにお出で頂き、お笑い芸人が政治を風刺するようになったきっかけとその楽しみ方、沖縄から発信する意味について伺いました。

★4月4日のミュージカル上演に向け猛練習中です。

★ ★ ★

●今年度(1月1日～3月31日)寄付・カンパを頂いた方々

石田みどり 鹿糠文子 坂本和子 岡村健手塚賢至 照本祥敬 野寿子 当山幸江 森口美千恵 三浦幸子 山田道子 助川寿美子 式部恵子 丹羽雅代 與儀勝子 与那覇晴海 湯本貴和 上田秀一 大城喜春 北上田登久子 盛口佳子 真津昭夫 家門収一 長嶺由紀子 橋川由美子 小渡律子 幸地江美子 城間おん あずき松茂 良米子 名城悦子 所扶久代 石野裕子 矢崎智章 尾崎せき 松田晴代 萩原真美 城間栄順 村上呂理 伊波雅子 仲里博彦 下地孝野 村佳雄 西山哲平 智海竹内 新大城博長 美枝子 野村佳雄 横山真由 美岡部勉 仲里一恵 知念敏則 湯浅松生 泉恵子 谷川俊太郎 辻口光生 高坂嘉孝 武田富美子 富山恵盛 奥本さつみ 古堅苗安田圭太郎 岸本千賀子 野原京子 高橋泰子 仲村宮子 平地ますみ 曾田蕭子 鈴木和男 西原邦男 伊藤道場 福井香代子 野村佳雄

発行者：珊瑚舎スコーレ

事務局：遠藤知子

住所：〒901-1414 南城市佐敷津波古 509-4

Tel：098-975-7781 Fax：098-975-7783

Mail：info@sangosya.com

URL：https://sangosya.com